

モーニング・マネジメントを考える

－高井伸夫著「朝 10 時までに仕事は片づける」

(かんき出版/2002年12月2日発行/定価 1400 円)を読もう－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

これから迎える知識社会では、仕事の上で結果を出せるか否かで仕事の上での地位や待遇、その他が決まってしまうと思われまます。

では、どうしたらよいか。難しい仕事ほど段取りが全てと言われます。みんなが出勤する前に、その日の段取りをすべて整えて万全を期する、つまり、モーニング・マネジメント、朝の時間帯を自分自身で管理し、「朝 10 時までに仕事は片づける」、10 時以降は、ゆっくりとゆとりを持って仕事をするという時間の使い方が大切となってきます。

高井伸夫弁護士のこの本は、このような「仕事の方法の極致」を具体的に教えてくれるもので、是非皆様に何回も読んで頂きたく、その内容をここに御紹介致します。

2. モーニング・マネジメントを考える

◇こんなにある！ 朝 10 時までにできること

- ①仕事は限られた時間をどう整理して使うかで結果が違ってくる。
- ②朝の通勤電車をオフィス化する。
- ③入社してから 10 時までを「自分のゴールデンタイム」(稼ぎ時)として 1 日の段取りを整える。
- ④これから仕事は「できるか、できないか」で測られる。あるのは「勝ち組」か「負け組」だけ。
- ⑤仕事を手早く片づける 3 つのコツ。
 - ・仕事には必ずタイムリミットを設け遵守する。
 - ・スケジュールを作り、つねに前倒しで実行する。
 - ・込み入った話でも 3 分以内にまとめる話術を身に付ける。
- ⑥早朝の 1 時間は昼間の 2 時間に匹敵する。

◇朝をマネジメントする情報ツール活用術

- ①カセットテープレコーダーや IC レコーダをメモ代わりに活用する。
- ②発想や着想は活動しているとき突然出てくる。それを確実に記録するには音声記録が一番である。
- ③文章化のスピードアップにもテープの音声入力是有効。
- ④インターネット時代の課題。
 - ・情報伝達が加速し、理解力、選別能力のない者が増える？
 - ・自ら考え、感じ、思う能力が退化、人間性が失われる？

- ・ 結論的，断定的になり，思考の緻密さが失われる？
 - ・ 過去の事実やデータが重視され，先見性，予見性が退化する？
- ⑤最高の情報ツールは「人間」である。適切なアドバイスをくれ，情報を提供してくれる「情報顧問」をもつ努力をする。

◇早起きで世の変化を先取りする

- ①いまや「朝令暮改」はホメ言葉である。人も企業も変わらなければ生き残れない。
- ②小さな目標をつくり3連勝してみよ。勝ち癖をつければ自信が湧く。
- ③優秀な社員と同じ行動特性を備えた人は成果を上げる確率が高い。
- ④これからの時代は「どこに勤めているか」ではなく，「あなたは何ができるか」で評価される。
- ⑤よい人脈に巡りあいたいなら，自らがよき人脈になれ。
- ⑥人脈足りえる人物の特性は，仕事の能力がある，人柄がよい，感性豊か，人付き合いがよい，人間関係が広いである。
- ⑦言われたことをやるのは当たり前，言われないことを率先してやって初めて仕事。

◇今日の1つは明日の2つにまさる

- ①「してみたい」ならすぐに行動を起こせ。ただし「所要時間」を短くする。
- ②時間は「改まって」でなく「ついで」に使うと増える。行動の幅も広がる。
- ③素晴らしい考えは「飛んで」やってくる(妙想飛来)。
- ④よい兆しに着目しながら，ひたすら前向きに考え続けると名案が浮かぶ。
- ⑤「あなたが出会う禍があるとしたら，その禍はあなたがかつておろそかにした時間の報いなのである」(ナポレオン)。
- ⑥仕事は忙しい人に頼め。忙しい人ほど多くの時間を持っているからだ。
- ⑦「いま」を大切にしよう。人が生きるのは「いま」という時しかないのだ。

◇「朝の一仕事」で気をつけたいこと

- ①文書化を大切にす。人間の記憶は「目に8割，耳に2割残る」からだ。
- ②記憶力を過信するな，こまめなメモを取ることが時間の節約につながる。
- ③仕事を始めるとき大義名分書を作れ。理念，思いを綴った大義名分書がうまく作れなかったら，その仕事は大した意味がない。
- ④「1枚」にした経過書を作れ。経過書を見ながらのミーティングなら，いきなり核心に入れ，効率的な打ち合わせができる。
- ⑤ビジネス文書作成5つの原則。
 - ・ 必ず用件見出しを作り最初に結論を持ってくる。
 - ・ 読む気にさせる。
 - ・ 個条書きを多用し，拾い読みでもわかるようにする。
 - ・ 最初の3分の1で読むのを止めても理解できるようにする。
 - ・ すべてを肯定的，前向きに書く。

◇パワーモーニングで人生を新しくする

- ①早起き 3つの得は、時間が増える、頭がクリアになる、健康になる。
- ②朝型人間の最大の敵は自分自身である。
- ③朝の時間帯は右脳を使う仕事(企画, 創造, 戦略)に向いている。
- ④眠りには深さがあるので、必ずしも時間の長短だけを気にしない。
- ⑤追いかけると時間を奪われる。時間は先回りして待ち伏せする必要がある。
- ⑥バランス感覚を磨く 5項目。
 - ・結果を想定する能力があるか。
 - ・視野は広いか。
 - ・自己改革ができるか。
 - ・定石を疑えるか。
 - ・迷ったときに人に相談できるか。

3. おわりに

『いまのデフレは当分続きます。当分という「いつまで」という問いが必ず返ってきます。そういう判断は非常に難しいことですが、私は 20 年とか 50 年といった単位で続くのではないかと思います。』

私が尊敬するエコノミストの中前忠先生によれば、
「インフレというのは世界歴史上、ごく限られた期間にしか起きなかった現象である」のだそうです。
だとしたら、

「経済の根本はデフレである」

と見ておかなくてははいけません。このことがデフレは当分続くと思う根拠です。

インフレとデフレの関係を世界歴史で見ると、1520 年から 1600 年までのインフレは新大陸発見によるもの、1750 年から 1820 年頃までのインフレは産業革命とナポレオン戦争によるもので、後はずっとデフレだったのだそうです。

現代のインフレは 1900 年頃から始まり、第一次世界大戦の勃発とともに加速し、20 世紀とともに終わりました。

こうしたマクロの視点で見ると、いったんデフレになったら、少なくとも 50 年、100 年続いとおかしくないわけです。

企業はこうした歴史的事実を踏まえて、自社の生き残りを考えなければいけません。同じことは個人についてもいえるのです。』

※以上、同著 P117 ~ 118 より引用

モーニング・マネジメントでがんばりましょう!!

(2002 年 12 月 20 日記)